

【学会情報】

日本ブドウ・ワイン学会2018年京都大会の開催報告

澤邊昭義¹・渡辺(齊藤)史恵²

¹近畿大学農学部, ²山梨大学ワイン科学研究センター

Reports on 2018 ASEV JAPAN

Akiyoshi SAWABE¹ and Fumie WATANABE-SAITO²

¹Faculty of Agriculture, Kindai University

²The Institute of Enology and Viticulture, University of Yamanashi

日本ブドウ・ワイン学会2018年京都大会が、2018年11月17日から18日まで、京都大学吉田キャンパス北部構内（北部総合教育研究棟 益川ホール、旧演習林棟）にて開催され、本年度で第33回目である。京都大学大学院農学研究科 小田滋晃教授が大会実行委員長を務めた。

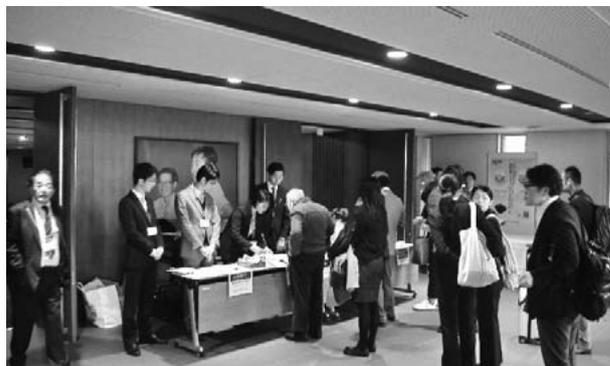
本年度の大会は、初日が評議会、開会の辞、一般講演（口頭発表）、総会、論文賞・技術賞受賞者講演、および研究会（懇親会）、第2日がセミナー、ポスター発表 ショートプレゼンテーション学術口頭発表、ランチョンセミナー、学術ポスター発表、および大会発表賞 授与式となっていました。

学術発表は口頭発表が13題、ポスター発表が8題

ありました。本年度も学術ポスターセッション中は、ワインのテイスティングコーナーが設けられ、ワインと酒粕生キャラメルなどを味わいながらポスター発表および討論がなされた。



大会実行委員長 小田滋晃教授の挨拶



会場の様子

セミナーは、小林康志（NPO法人スタイルワイナリー・伊賀市産業振興部商工労働課）による「売れにくい地域特産品を売るための工夫について」—三重県伊賀市・菜の花プロジェクトを事例として—および後藤奈美（日本ワインの競争力強化コンソーシアム代表・（独）酒類総合研究所）による「日本ワインの競争力強化コンソーシアムの取組」の2題の講演がなされた。

本大会における大会および研究会(懇親会)の参加人数は以下に示したとおりで、多数の参加を戴き、活発な質疑応答もあり、盛況におこなわれ、大きな成果を収めたと確信する。

1. 参加者数

1-1. 大会 合計 171名

内訳

一般会員	141名
学生	26名
名誉会員	3名
招待者	1名

1-2. 研究会 合計 131名

内訳

一般会員	112名
学生	15名
名誉会員	2名
招待者	2名

2. 学会賞受賞・大会発表賞の受賞者

2018年 功績賞：

Lyndie Boulton(アメリカ学会元Executive Director)
「ASEV, Japan Chapter に対する永年に渡る助言と貢献」

2018年 技術賞：

鈴木俊二（山梨大学）
「醸造用ブドウのウイルス診断受託事業化:ウイルス感染に対する認識を高めるための試み」



技術賞：鈴木俊二氏（山梨大学）



大会発表賞 口頭部門：木村智彦氏（左）
ポスター部門：清水秀明氏（右）

大会発表賞 口頭部門：

木村智彦（北大院食資源）

「北海道内のワイン醸造用ブドウから単離した植物内生菌に関する研究」

大会発表賞 ポスター部門：

清水秀明（独立行政法人酒類総合研究所）

「赤ワインの初期低温醸しの効果」

3. 特別講演：

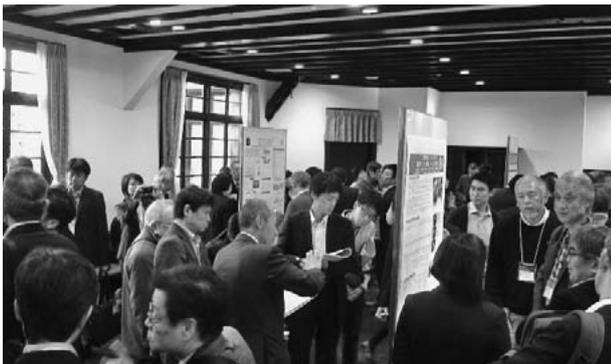
亀岡孝治氏（三重大学大学院生物資源学研究科）
「デジタル技術を用いたワイン用ブドウ栽培—精密農業、スマート農業、そしてデジタル農業へ—」



亀岡孝治氏の特別講演



ポスター発表会場 ワインおよび軽食



ポスター発表の様子



研究会（懇親会）会場：
京都大学北部生協会館 2階多目的ホール

4. ワイン寄贈団体：企業名

アサヒビール（株）
（株）アルプス
池田町ブドウ・ブドウ酒研究所
（株）エーデルワイン
サッポロビール（株）
（株）さぬき市SA公社 さぬきワイナリー
サントネージュ（株）
サントリーワインインターナショナル（株）
三和酒類（株） 安心院葡萄酒工房
（株）志太 中伊豆ワイナリー

丹波ワイン（株）
中央葡萄酒（株）
北海道ワイン（株）
（株）巨峰ワイン
勝沼酒造（株）
マンズワイン（株）
メルシャン（株）シャトーメルシャン
（株）島根ワイナリー
（有）ココファーム・ワイナリー
NPO法人 スタイルワイナリー

以上